

太子高校の挑戦 その6

授業評価アンケート結果

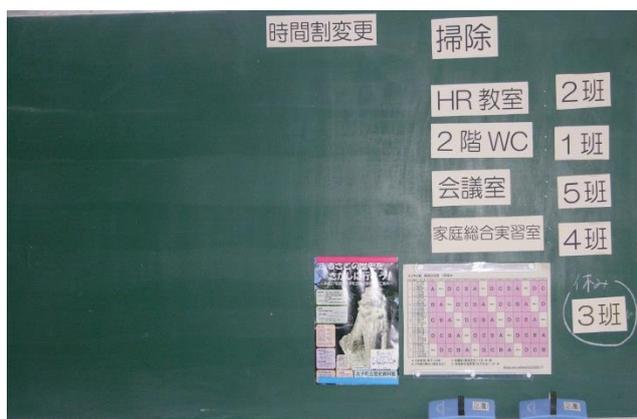
本年度は、太子高校の「挑戦の年」と位置づけて「学力向上」「授業改善」に取り組んでいます。この通信で本校の取組みについてお話することで、太子高校の挑戦について知っていただければと考えています。

先月、生徒と教師それぞれによる授業評価アンケートを実施することをご紹介しました。その結果が職員会議で報告されました。細部にわたる分析は、夏期休業中にカリキュラム・マネジメント（CM）委員会で行われます。ここでは、私が気づいた点のごく一部を簡単に述べようと思います。

まず、「本校の授業は生徒の状況に合ったものであるか」という問いに、76%の生徒が「はい」と答えています。教師の方は「自分の授業は生徒の状況に合わせている」に96%の割合で「はい」と回答しています。生徒と教師の授業内容等に関する意識には、少々差異があります。この差は「全般的に学校の授業がわかる」と感じている生徒が30%であることと関係が深いと考えられます。さらに、「全般的に授業で自分の学習は充実している」と感じている生徒も30%です。一方、「自分の授業は生徒に充実感を与えている」と感じている教師は77%です。この意識の開きにも注目する必要があります。

では、充実感を与える授業を展開するには、どんな方法が効果的でしょうか。「クラスやグループの中で発表させることだ」と回答した教師は72%でした。「授業中生徒同士で話し合う機会や意見などを発表する機会がある」と回答した生徒は83%です。先生方の授業実践は、しっかりと生徒に受け止められているということが分かります。この結果は、太子高校でアクティブ・ラーニングの実践が着々と進んでいることを表しています。「生徒の学力を向上させるために授業改善は必要か」の問いに「そう思わない」と答えた教師が0%であったことと合わせ、本校の教師集団の頼もしさを強く感じるアンケート結果でした

ONE SHOT



教室後方の黒板です。掃除当番の割り当てや時間割変更が、とてもわかりやすく配置されています。左側の大きく空いているところには、日々の連絡事項が書かれます。

担任の先生方の工夫で、教室毎に配置の仕方や掲示方法などは違いますが、共通していることは、①一目で分かる ②整然と並んでいる ③1年間掲示場所が変わらない ということです。インクルーシブ教育における「合理的配慮」にも該当する取組みです。先生方の「愛」です。

学校のカ・イ・タ・ン

放課後のクラブハウス前で、部活の生徒がテントを片付けていました。汚れを濡れたぞうきんで拭いてから、乾いたぞうきんで乾拭き。端から端までほんとうに丁寧に拭き上げていました。その後、そこにいる部員全員で几帳面にたたみ、袋にしまい込んでくれました。こういう仕事が全員で丁寧にできるから、太子高校の部活が強くなるのだと感じ入りました。皆さんありがとう。